レガシーシステムの効率的な整理方法についての研究

アブストラクト

1. 背景

多くの企業の経営者がデジタルトランスフォーメーション（DX）の必要性を認識し、DX を進めるべく活動している。老朽化・複雑化したシステムは一般的に「レガシーシステム」と呼ばれており、DX 推進に歯止めをかける存在になっている。約 9 割の日本企業が「レガシーシステム」を抱えており、各企業で対策を求められているが、既存システムの状況把握・可視化が難しい。また、問題点を見つけたところで解決手段がわからないなどの課題を対処できず、レガシーシステムを保持し続けている。

2. 目的とアプローチ

この課題に対処するためには、客観的かつ網羅的な問題点の洗い出しが必要となるが、観点などがなければ当事者のみで全ての問題点を洗い出すことは難しい。そこで、本分科会ではレガシーシステムを効率的に整理する方法を提言することを目的とし、課題解消へのアプローチとして、図 1 のように既存システムを分析するツール「レガシー度チェックシート」「問題解消ガイドライン」を作成した。

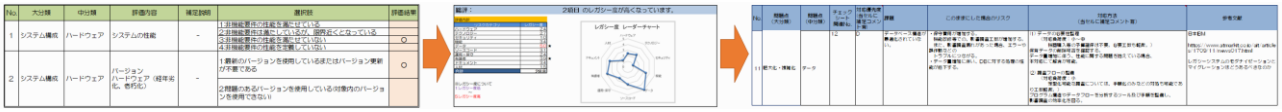

図 1:「レガシー度チェックシート」「問題解消ガイドライン」の使用イメージ

3. レガシー度チェックシート

レガシーシステムの可視化方法について、レガシー度をカテゴリ毎に数値化することにより、既存システムの問題箇所が明らかとなるという仮説を立て、レガシー度チェックシートを作成した。レガシーシステムと位置付けるために必要な評価項目・カテゴリ・重要度を設定し、評価項目に対して回答することで、カテゴリ毎に重要度を加味した評点をチャート化し、問題箇所を可視化する。

検証を実査方式で実施し、結果を分析したところ、「担当者がレガシーと思っている」「メインフレーム系のシステム」「稼働年数が長い」に当てはまる場合にレガシー度が高い結果となることがわかった。実査担当者にアンケートを実施し、実際との乖離がないかとの問いに対して、66%が「ない」「ほぼない」と回答しており、レガシーシステムの可視化に有用であると考える。

4. 問題解消ガイドライン

DX 推進・維持管理の対応を検討するための判断材料として、各社での実例や IPA 等の文献をベースに、問題解消ガイドラインを作成した。チェックシートとの紐づけにより抽出した問題に対して、そのままにした場合のリスク、推奨する対応方法を提示する。

実査担当者にアンケートを実施し、リスクに対するガイドラインは適切かの問いに対して、70%程度が「適切」「やや適切」と回答しており、解決方針決定の材料になると考える。

5. 総括

本分科会の研究成果は、レガシーシステムという曖昧な存在について、現場の担当者が問題点とその深刻度を明示化するための仕組みを提示できたことである。今後の分科会で、レガシーシステムを解消、またはレガシーシステムを維持したまま DX 化するための、具体的な施策について研究が行われ、本分科会の成果物と合わせレガシーシステム解消の礎となることを期待している。